INDEX

№27（1994．3）　ISSN 0912-5922

学術情報センターニュース

第27号目次

《トピックス》
・学術情報センター電子計算機棟建設開始…2
・「学術研究情報ネットワークに関する計画調整会議」設置始動 ……3
・衆議院文教委員会委員が学術情報センターを視察 ……3
・目録所在情報サービスの利用300機関達成 ……4
・学術情報ネットワーク
—きょう・あした— ……5
・NACSIS－ILLの拡大傾向 ……6
・NACSIS－IRの現状 ……7
・タイ国からの招へい ……8
・フランス科学研究庁（CRNS）からの来訪…8
・スーザン・ホッケー博士来訪 ……9
・韓国ソウル国立大学図書館長来訪 ……9
《NACSISサービス案内》
・平成6年度におけるサービス休止予定 …10
・学術情報ネットワークの運用停止 ……11
・「雑誌記事索引データベース」の利用範囲拡大 ……11
・電子掲示板のネットワークニュース利用時の機能向上 ……11
・新規3データベースのサービス開始
—「大型コレクションディレクトリ」「日本独文学会文献情報データベース」「スラブ地域研究文献データベース」— ……12
・平成5年度NACSIS－IRモニタリング
—報告— ……13
・平成5年度「学術情報データベース実態調査」概要と「データベース・ディレクトリ」の更新 ……14
・「学術雑誌目次速報データベース（仮称）」の実施計画 ……16
・NACSISサービスQ&A ……18
・NACSIS－IRデータベース収納状況 …25
・接続ニュース ……26
・NACSIS－CATデータベース構築状況 27
《教育・研修》
・平成5年度教育研修事業報告 ……28
・平成6年度教育研修事業計画 ……30
・平成5年度目録所在情報サービス利用説明会報告 ……31
・平成6年度目録所在情報サービス利用説明会の開催 ……31
・平成6年度情報検索・電子メール利用説明会の開催 ……32
《講演会など》
・ワークショップ「米国における日本研究のための情報資源」開催 ……33
《その他》
・平成5年度後期会議などの報告 ……34
・海外渡航一覧 ……35
・学術情報センター日誌 ……36

学術情報センター電子計算機棟建設開始

学術情報センターでは、平成５年度および６年度の２ヶ年計画で、東京大学から同大学生産技術研究所千葉実験所（千葉市稲毛区）敷地の一部を借用し、電子計算機棟を建設することになり、本年中の完成を目指しこの１月から本格的な建設工事が始まった。

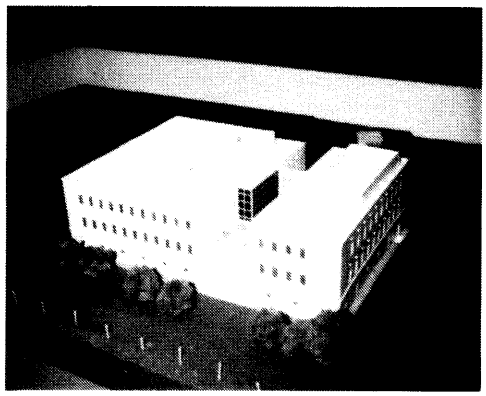
ご承知のとおり、近年情報流通基盤の整備に関しては急速に関心が高まっている。平成５年度の数次にわたる補正予算においては、大学等における学術情報の流通を促進する上で必要不可欠である各大学等におけるキャンパス情報ネットワーク（学内LAN）の整備が、飛躍的に進められている。

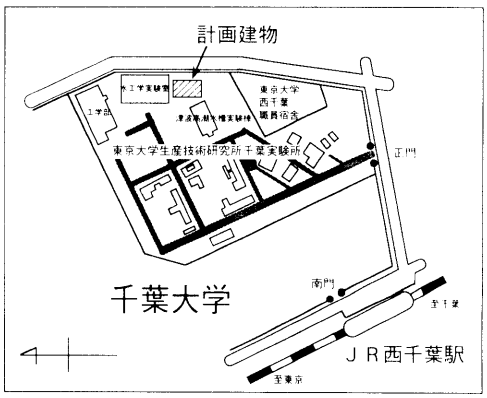
さらに、これらの学内LANを相互に接続する学術情報ネットワークの拡充整備も併せて実施されており、電子計算機棟建設計画はこのような学術情報流通の基盤整備の一環として進められているものである。

学術情報センターは、創設以来筑波大学および東京大学から文京区大塚地区にある同大学の施設の一部を借用し、研究や事業活動を行っている。その後も学術情報システムの整備、組織機構の拡充整備を行い、発展してきた。これに伴い、現有施設は必ずしも十分とはいえない状況におかれているが、電子計算機棟の建設により、今後の事業展開のための設備の拡充にも、十分に対応することができることになる。

電子計算機棟の概要は、次のとおりである。

所在地	千葉市稲毛区弥生町１－８ （東京大学生産技術研究所千葉実験所内）
敷地面積	約2,300 m²
建物の規模など	
構造・階数	鉄筋コンクリート造　３階建
面積	建面積 1,261 m²　延面積 3,714 m²
主な施設	コンピュータ室、ディスク室、端末室、ネットワーク機器室、オペレータ室、事務室、会議室など





「学術研究情報ネットワークに関する計画調整会議」設置始動

平成4年11月開催の全国共同利用大型計算機センター長会議において、文部省から、学術研究情報ネットワークの整備について検討するよう依頼があった。本センターでは、7大学大型計算機センター長、総合情報処理センターの代表ならびに学識経験者によって今後の学術研究情報ネットワークの整備方針について検討を行い、平成5年4月に「学術情報ネットワークならびに学術研究情報ネットワークの整備方針について」と題して文部省に報告を行った。

この報告の中で、学術研究情報ネットワークに関する整備計画・調整について審議を行うために、本センターに「学術研究情報ネットワークに関する計画調整会議」の設置が提言されている。これを受けて平成5年11月、7大学大型計算機センター長、総合情報処理センター、情報処理センターならびに大学共同利用機関からの代表、私立大学情報教育協会の代表ならびに研究ネットワークの関係者および本センターの関係者からなる本会議が設置され、委員長を本センター所長とし、事務局を本センターに置くことになった。

これまでに3回の会議が開催(平成5年11月18日、平成6年1月19日、平成6年2月15日)され、検討課題として、①学術情報ネットワークと地域ネットワークの連携等、②学術情報ネットワークと研究分野別のネットワークとの連絡調整、③バックアップポリシーについて審議が行なわれている。

衆議院文教委員会委員が学術情報センターを視察

島崎委員長を代表とする衆議院文教委員会委員14名は、11月8日学術情報センターを訪れ、約1時間に亘って同センターの施設を視察した。

委員は、猪瀬所長ら幹部職員、文部省の佐藤学術国際局長、長谷川学術情報課長の出迎えを受け、センター紹介ビデオを見た後、猪瀬所長から施設の概要などについて説明を受けた。

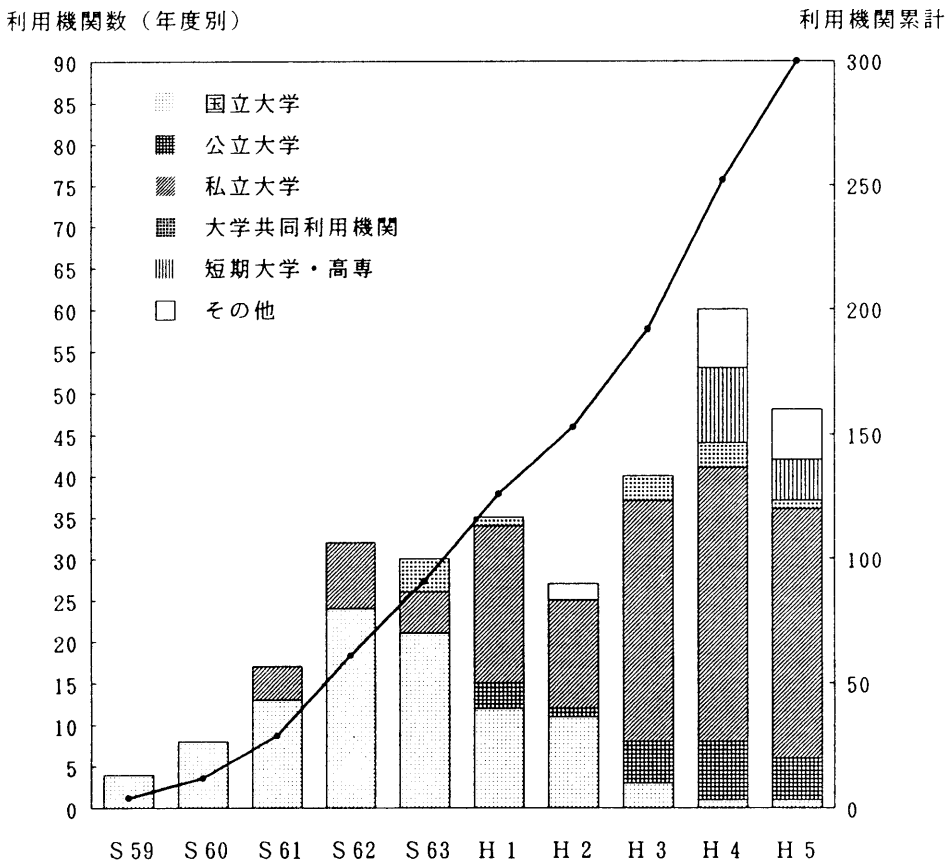
その後、講習会室に移り、センターの事業である目録システム(NACSIS−CAT)、図書館間相互貸借システム(NACSIS−ILL)、情報検索サービス(NACSIS−IR)のデモンストレーションが行われ、委員からこれらについて熱心な質疑があった。

目録所在情報サービスの利用300機関達成

平成6年2月1日に三重県立図書館が利用機関となり、目録所在情報サービスの利用機関は300機関となった。

最初の接続機関である東京工業大学から、100機関目が5年2ヶ月、200機関目が2年6ヶ月、300 機関が1年6ヶ月という短い期間で達成された。さらに今年度中に15機関が予定されている。

年度別の利用機関数および利用機関累計は、下図のとおりである。



利用機関数はサービス開始の4年間で、4、8、17、32と増え続け、以降、毎年30機関前後が新たに接続されてきたが、平成4年には60機関と飛躍的な伸びを示している。本年度も2月1日現在で、既に48機関が利用を開始した。

また、平成5年8月の利用規則の改正により利用が可能となった都道府県・政令指定都市立の図書館としては富山県立図書館、山形県立図書館、三重県立図書館が、他省庁の研究機関としては農林水産省の農業生物資源研究所が接続を完了した。さらに、青森県立図書館、農林水産省の農業工学研究所、特殊法人アジア経済研究所が近々接続される予定である。

学術情報ネットワーク　—きょう・あした—

1．現　状

学術情報ネットワークは、汎用コンピュータで構成されている大学間コンピュータネットワーク、総合目録データベースの作成やILLシステムを利用する図書館ネットワーク、特定研究分野のグループネットワークとして利用されているパケット交換網と、近年大学内に構築が進められているLANを相互に結ぶインターネット・バックボーン（SINET）の2つの独立したネットワークで構成されている。

パケット交換網は、昭和61年度から平成3年度までに、パケット交換設備を全国28の大学等（北見工業、北海道、弘前、東北、筑波、千葉、東京、東京工業、電気通信、横浜国立、群馬、信州、新潟、名古屋、金沢、京都、大阪、神戸、岡山、広島、鳥取、愛媛、九州、熊本、長崎、鹿児島、琉球の各大学および岡崎国立共同研究機構）と本センターに設置し整備を行ってきた。当初、本センターを中心としたスター型によるパケット交換網の構成で運用を行ってきたが、現在ではノード機関の拡大に伴い、効率的に通信を行うため、北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、広島、九州の各大学のノードのパケット交換機能を活用し、ノード間通信の分散化を図った。また、公衆電話網からパケット交換網に接続されたコンピュータを利用するためにアクセスポイントを6ノード（北海道、東北、名古屋、大阪、広島、九州の各大学）と本センターのパケット交換機に設置している。

SINETは、平成4年4月からSINETノードとしてLAN間接続機器（ルータ）を上記28ノードのうち北海道、東北、筑波、東京、名古屋、京都、大阪、九州の各大学と本センターに設置して運用を開始した。平成5年12月には、本センターを含めてSINETノードが26に拡大し、さらに集合型ルータを導入することにより、接続する機関の負担の一部軽減を図った。来年には、全パケット交換ノードにSINETノードが併設される予定である。他の研究情報ネットワークやパソコン通信（電子メール交換のみ）とも、本センターを経由して通信が可能である。海外に対しては、海底ケーブルによって本センターと米国を結んで、米国さらに世界のインターネットとの通信を可能としている。

2．計　画

学術情報ネットワークでは、将来の音声・画像、ビデオ画像などのマルチメディア通信や高速通信を実現するために、今年度の補正予算において学術情報ネットワークの全てのノードに対してATM（Asynchronous Transfer Mode：非同期転送モード）交換機の導入を行ない、今年度末に順次設置することになった。従来はパケット交換網とSINETで回線容量を固定して分割使用していたが、ATMによって回線容量を動的に配分できるようになる。

回線速度の増強は、学術情報ネットワークの高速化の概算要求が認められ、来年度の早期には国内の回線が6 Mb／sと1 Mb／sに、米国向け回線は2 Mb／sに増強される予定である。

NACSIS－ILLの拡大傾向

ILLシステムのサービス開始から2年経過しようとしているが、最近の利用状況について簡単に紹介する。

1．利用館とレコード件数の増加

平成6年1月末時点での利用館の数は表1のようになる。国立大学ではほとんど全ての機関で利用されている。公立・私立大学も徐々に利用館が増加してきている。また、昨年8月からの利用資格の拡大によって今後はその他の機関（専門図書館、公共図書館など）の増加が期待されている。大学に限ってみると、現在のILLシステム利用館の数はILL業務を行っている大学全体の約4割に相当する。

表1　ILLシステム利用館

	国立大学	公立大学	私立大学	短大高専	その他	計
機関数	96	6	62	6	15	185
参加組織数	222	9	71	6	15	323

利用館とレコードの増加状況をグラフにすると図1のようになる。今年度になってレコード件数の大幅な増加傾向が認められる。

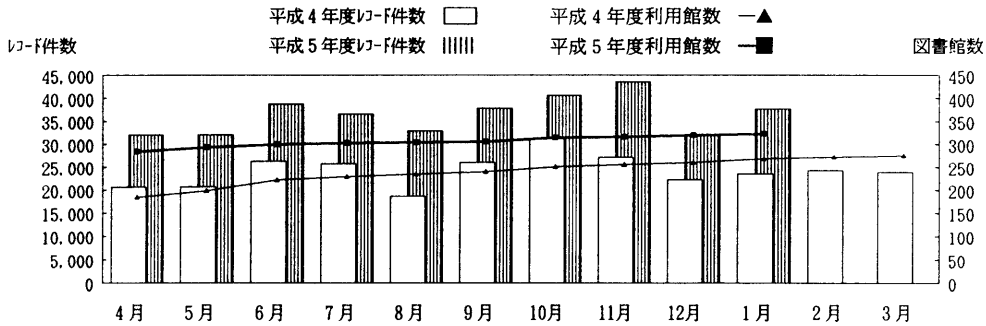


図1　ILLレコード件数および利用館数の推移

2．新たな展開

平成5年4月から研究者等のILL申込みの簡素化を図るために、NACSIS－IRからの申込機能（REQUESTコマンド）の運用を開始した。この機能を利用するためには、研究者自身が所属する機関の図書館（依頼館）での承認が必要であるが、現在までのところ、17機関24参加組織で運用され、50名のNACSIS－IRのユーザの間で459件の利用があった。このREQUESTコマンドの利用頻度をIRデータベース別にみると、FSCAT、JBCAT、NDLJPI、FBCAT、JPMといった順に多く利用されている。

3．今後の展開と課題

本年4月からはILLシステムを利用して海外の機関(BLDSC)への依頼もできるようになる（本誌No.26 p.14)。これまで以上に図書館のILL業務においてILLシステムの重要性が一層増すことになるものと考えられる。

図書館におけるILLサービスは、ILLシステムによって業務のかなりの部分のシステム化が進行し処理の迅速化と効率化をみたと考えられる。今後は、サービスの質と量を向上させるためにも、システム化されていない事項、すなわち会計的な処理、運用規約などの改善、整備が望まれる。

NACSIS—IRの現状

学術情報センターの情報検索サービスは、学術研究に必要なデータベースの作成、内外のデータベース導入、研究者提供データベースの受け入れなどの事業を行い、我が国における学術情報データベースサービスの中枢センターとして順調に発展を続けてきた。

本年度は、新たに以下の9種類を追加し、合計44種類のデータベースをサービスしている。

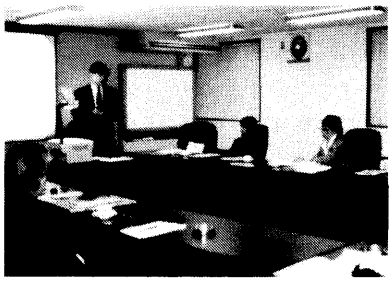
平成5年度サービス開始データベース

データベース名称	作成機関等
①化学センサーデータベース	横浜国立大学化学データベース委員会
②学術関係会議等開催情報(日本学術会議編)	学術情報センター
③学協会集会スケジュール(日本工学会編)	日本工学会
④学術論文データベース第五系（理学）	学術情報センター
⑤臨床症例データベース	学術情報センター
⑥電気化学データベース	横浜国立大学化学データベース委員会
⑦大型コレクションディレクトリ	東京大学附属図書館
⑧日本独文学会文献情報データベース	日本独文学会
⑨スラブ地域研究文献データベース	スラブ学文献研究会

また、MathSci、SciSearch、EMBASEなど10のデータベースについて収録分野の拡大、遡及入力などの拡充を行うとともに、検索速度の改善、全てのデータベースへのHELPコマンド付加、カナを全て全角で表示する機能の付与などを行った。

データベース作成に関する最近のトピックスとして、①国内で刊行される大学紀要などの学術雑誌に掲載される記事情報をもれなく迅速に採録・提供する「学術雑誌目次速報データベース(仮称)」の構築事業を開始し、次年度からデータ収録を開始する予定であること、②我が国の大学等に所属する研究者の研究課題およびプロフィールを収録した「研究者ディレクトリ」の改訂作業を、平成4年度、5年度の調査を基に進めていること、③出版・データベース・文書交換などへの多目的利用を可能とするSGML規格での文書の電子化による学術論文の流通をはかって、学会などへの普及活動を開始し、本センターでもSGML文書からの学術論文データベースへの収録を行ったこと、などがあげられる。

タイ国からの招へい

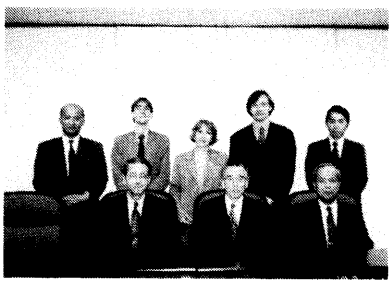


タイ国は親日的な国として知られている。近年は大学図書館とくに医学関係の図書館員交流によって我が国でも次第に理解を深めつつある。タイ国がアセアン連合の諸事業において主導的な立場にあることも知られつつある。タイ国における学術情報ネットワークは、政府の重点政策であるコンピュータ化、ネットワーク化の動きと合わせて、現在急速に進行中であり、首都圏の大学ネットワークと地域大学のネットワークの平行開発が進行している。

タイ国情報アクセスセンター（TIAC）は工業環境省の所轄する国策の特殊法人であり、データベース作成・情報検索サービスを主任務としている。十分に整備されたネットワークを前提とした情報検索サービスと合わせて、CD－ROMによる提供を推進するため入力・加工処理のためのハード・ソフトに関心がある。

今回、「日本情報および東アジア文字による学術データベースの国際交換に関する研究」（科学研究費）の一環として1993年10月25—29日に招へいした、スディポン所長はKDD研修生として(当時、センター小野欣司教授の指導を受けた)経験もあり、プラディッタ主任情報員はタイ国を代表する情報検索専門家である。また、慶応大学で博士課程を修了されたチュラロンコン大学のクリティヤ国際交流部長は、同大学図書館情報学部の講師でもある。センターではセンター事業について紹介するとともに、タイ国の情報政策、ネットワーク化の状況、情報検索サービスに対する需要などについて報告を受け、センターのアジア展開に参考となる意見を聴取することができた。

フランス科学研究庁（CRNS）からの来訪



平成5年11月9日、CRNSより、科学技術情報研究所（INIST）所長Claude PATOU氏、CRNS国際部アジア担当Françoise　AUBEJEAULT氏、CRNS東京支部工学担当Jean-Pierre BRIOT氏が当センターを訪問された。初めての来訪であったので、センターの概要を知っていただくため、まず最初に、紹介ビデオ、NACSIS－IRおよびNACSIS－CATのデモンストレーションをご覧いただいた。NACSIS－IRのデモンストレーションでは、研究者ディレクトリについて、フランスでも同様なデータベースを開発中ということで、強い関心をもたれたようであった。引き続き、西田副所長、井上研究主幹、上田事業部長、済賀システム管理課長、Dr.Ribault客員研究員らとの懇談が行われ、それぞれの機関の活動内容について、意見交換がおこなわれた。INISTは、フランスの文部省に相当するCRNSの下で情報を専門に取り扱う機関であり、学術情報センターと共通項も多くみられるため、今後とも相互協力の可能性について探ることとし、双方に窓口が設けられた。

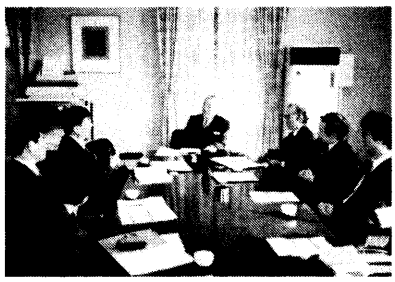
スーザン・ホッケー博士来訪

スーザン・ホッケー博士（Dr. Susan Hockey）は、米国プリンストン大学とラトガース大学が共同で維持する人文科学電子テキストセンター（CETH：The Center for Electronic Texts in the Humanities）の所長である。CETH は高品質の電子テキストの利用を介して人文科学を進歩させることを使命としている。欧米のみならず日本においても近年盛大に推進されているテキストエンコーディングイニシアティブ（TEI）の拠点の一つとして、全米人文財団（NEH）ほかの支援により古典テキスト（本文）をフルテキストデータベースとする課題に取り組んでいる。

ホッケー博士はCETH 所長として米国ではフルテキストデータベースに関する指導的立場にある一人であるが、むしろ、それまでに英国においてシェークスピア全作品の電子テキスト化の推進者として知られ、フルテキストデータベースの学術活動における意義と効用について経験に裏付けされた彼女の見識が衆望を集めている。

「大規模知識ベースの構築と共有に関する国際会議（KB&KS '93）」に基調講演者の一人として参加された機会に 1993 年 12 月 6 日にセンターへ招へいし、CETH の最近の課題である TEI への SGML の応用について詳細な解説を受け、あわせてセンターにおけるフルテキストデータベースの構築、フルテキストデータベース検索システムなどについて紹介し、意見交換した。

韓国ソウル国立大学図書館長来訪



去る平成 6 年 1 月 10 日、韓国ソウル国立大学（以下ソウル大学という）の朴孝根（PARK Hyo-geun）教授が図書館長就任の挨拶を兼ねて、司書官朴鍾根（PARK Chong-keun）氏を伴い、本センターを訪問された。

センターニュース第 25 号でもお伝えしたように、ソウル大学では、目録所在情報サービス（NACSIS－CAT）を利用した日本語資料の整理を目指して、昨年 6 月に学術情報センターと接続しており、教育モードでのテストが、現在順調に行われている。また、ソウル大学図書館が現在進めている電算化に合わせて、センターでは NACSIS－CAT 担当者のために目録システム講習会を今年度末に行う予定であり、業務モードへの移行も近い将来考えられる。

館長らは、猪瀬所長との懇談に引き続き、講習会日程など今後のスケジュールについて、小野教授、宮澤教授、目録情報課および国際事業室のスタッフと打ち合わせを行い、両者の関係のさらなる発展を期待しつつセンターを後にされた。

平成6年度におけるサービス休止予定

平成6年度における各サービスの休止予定は、以下のとおりです。

なお、平成6年度は、現在の大塚地区から西千葉地区に新営する電子計算機棟への電子計算機システムの移転および、学術情報ネットワークのATM交換機導入が予定されており、このためのサービス休止が例年に加えて予定されています。

現在、各サービスの休止時期・期間については、可能なかぎり利用者の皆様にご迷惑のかからないよう調整しており、決定しだいお知らせする予定ですが、多少のご不便をおかけすることは避けられないと考えられますので、あらかじめご了承ください。なお、電子計算機棟新営に関する記事が2ページに掲載されていますので、ご参照ください。

また、下記以外に休止する必要が生じた場合は、その都度、各サービス・システムのニュースなどでお知らせいたします。

サービス		休止日時
目録所在情報サービス		・土曜日、日曜日、国民の祝日および振替休日 ・毎月第4木曜日の12時以降（システム保守作業） ・年末年始（おおむね、12/28から1/4まで） ・電子計算機棟新営に伴う電算機設備移転（休止期間未定）
情報検索サービス		・土曜日の14時以降 ・日曜日、国民の祝日および振替休日 ・年末年始（おおむね、12/28から1/4まで） ・3/31㈮（年度末処理） ・電子計算機棟新営に伴う電算機設備移転（休止期間未定）
電子メールサービス		・毎月末（3月除く）の水曜日の12時から17時（保守作業） ・3/31㈮（保守作業および年度末処理） ・電子計算機棟新営に伴う電算機設備移転（休止期間未定）
学術情報ネットワーク	パケット交換網（パケット交換網接続のSINETおよびアクセスポイントを含む）	・5月上旬から7月中旬の間（休止期間未定） （ATM交換機導入に伴う休止） ・以下の日程の13時から17時（保守作業） 8/25㈭、3/31㈮ ・電子計算機棟新営に伴う通信設備移転（休止期間未定）
学術情報ネットワーク	SINET	・5月上旬から7月中旬の間（休止期間未定） （ATM交換機導入に伴う休止） ・電子計算機棟新営に伴う通信設備移転（休止期間未定）

（システム管理課）

学術情報ネットワークの運用停止

学術情報ネットワークの整備拡充作業に伴い，下記期間中は学術情報ネットワークパケット交換網の運用を停止しますので予めご了承願います。

学術情報ネットワークパケット交換網運用停止期間
平成6年3月31日（木）　午後1時から5時まで

なお、作業中においても一部の区間で利用可能となることがありますが、利用を保証するものではありませんので、予めご承知おきください。
SINET については、運用停止いたしません。

（ネットワーク係）

「雑誌記事索引データベース」の利用範囲拡大

平成3年1月からサービスしている「雑誌記事索引データベース」（作成機関：国立国会図書館）は、大学等の利用者のみ利用可能でしたが、「海外の高等教育・研究機関の研究職員等」を除く大学等以外の利用者にも利用が認められましたので、お知らせします。

（共同利用第二係）

電子掲示板のネットワークニュース利用時の機能向上

平成6年2月1日より、電子掲示板（NACSIS－BBS）のネットワークニュースの利用における、従来の制限事項が解消され、RN コマンドと同様の機能になりましたのでお知らせします。

(1) ニュースグループの追加
従来は、利用できるニュースグループ名が「fj」に限定されていましたが、「comp」も追加され、RN コマンドと同様になりました。

(2) メッセージの掲載
従来は、メッセージの参照のみでしたが、掲載も可能になりました（メッセージの掲載については国際電子メールの利用資格が必要です）。

(3) メッセージの更新タイミングの変更
従来は、メッセージを10日ごとに取りまとめて更新しておりましたが、全てのニュースグループについて、逐次更新するように変更しました。
（内部処理の関係で保存されているメッセージの内容について RN コマンドと BBS コマンドでは内容の更新時期がずれる場合がありますのでご了承ください。）

（システム管理係）

新規3データベースのサービス開始
—「大型コレクションディレクトリ」「日本独文学会文献情報データベース」「スラブ地域研究文献データベース」—

国立大学附属図書館の特別資料の書誌・所蔵情報である「大型コレクションディレクトリ」、日本独文学会への寄贈文献および機関誌『ドイツ文学』掲載論文などの文献情報を収録した「日本独文学会文献情報データベース」、および、我が国のスラブ東欧（旧ソ連・東欧）地域に関する図書、論文、雑誌記事などの文献情報を収録した「スラブ地域研究文献データベース」のサービスを平成6年3月1日から開始しましたので、概要をお知らせします。

1．概　　要

1.1　大型コレクションディレクトリ

(1)　収録対象

我が国の国立大学附属図書館が、昭和53年度以降に文部省から予算措置を受け収集している人文社会系の特別資料の書誌・所蔵情報です。

国立大学附属図書館では一般に「大型コレクション」と呼ばれています。

(2)　収録範囲、収録件数

昭和53年度以降のデータを収録、サービス開始時点の件数は479件

(3)　収録項目

購入図書館、言語コード、分類コード、オリジナル所在国コード、出版地、出版年、一般資料種別コード、特定資料種別コード、数量、複製コード、貸出可否、複写可否、購入年度、標題、概要、内容細目、目録情報、参考文献、特記事項

(4)　呼び出しコマンド

「OGATA」

(5)　そ の 他

本データベースは、東京大学附属図書館が各国立大学附属図書館の協力を得て作成しているデータベースを、同附属図書館の協力を得てサービスを行うものです。

昭和53年度～平成2年度分のデータについては、東京大学附属図書館編「全国国立大学所蔵大型コレクション総合目録」が刊行されています。

1.2　日本独文学会文献情報データベース

(1)　収録対象

日本独文学会の機関誌『ドイツ文学』に掲載されている「寄贈文献目録」（信貴辰喜編）および同誌掲載の論文、書評など

(2)　収録範囲、収録件数

1983年以降のデータを収録、サービス開始時点の件数は約1万件

年間増加件数は約3,000件

(3)　収録項目

標題、著者名、掲載雑誌名、巻号、ページ、件名、分類など

(4)　呼び出しコマンド

「DOKUBUN」

(5)　その他

本データベースは、日本独文学会が作成したデータベースを、同会の協力を得てサービスを行うものです。

1.3　スラブ地域研究文献データベース

(1)　収録対象

北海道大学スラブ研究センター発行の「スラブ東欧地域研究文献目録」

(2)　収録範囲、収録件数

1988年以降のデータを収録、サービス開始時点の件数は約3,000件

年間増加件数は約2,000件

(3) 収録項目
標題、著者名、掲載雑誌（図書）名、巻号、ページ、分類など
(4) 呼び出しコマンド
「SLAV」
(5) その他
本データベースは、北海道大学スラブ学文献研究会が作成したデータベースを、同研究会の協力を得てサービスを行うものです。

2．利用方法

データベースの内容および利用方法などについては各データベースの「NACSIS－IR データベースシート」をご覧ください。
本データベースはいずれも大学等以外の利用者の方も利用できます。

3．利用料金

データベースを呼び出す都度……30 円／回
なお、利用に係る経費は、各データベースの利用額の月毎の合計額にその 3 %を加算した額となります。

（データベース課）

平成 5 年度　NACSIS－IR モニタリング　―報告―

NACSIS－IR について、きめ細かく利用者の方々のご意見、ご要望を伺うために、平成 4 年度に引き続き、平成 5 年度 NACSIS－IR モニター制度を以下のように実施しましたので報告します。

1．スケジュール

平成 5 年	6 月 7 日	モニター決定
	6 月14日～10月13日	モニタリング実施
	11月25日	報告会開催

2．モニター

応募者の中から、専門分野、経験などを考慮し、研究者 13 人、図書館職員 8 人、合計 21 人の方にお願いしました。
モニター委嘱者は以下のとおりです（氏名の 50 音順、敬称略）。

研究者

相原総一郎（広島大）、一ノ瀬俊明（東京大）、桂重俊（東北科学技術短大）、金子周司（京都大）、川嶋紘一郎（名古屋工業大）、倉元綾子（湊川女子短大）、小宮山政晴（山梨大）、佐々木周（北海道教育大）、丹沢安治（専修大）、三上聖治（弘前大）、宮本明雄（日本大）、森下はるみ（お茶の水女子大）、米丸恒治（鹿児島大）

図書館職員

今井淑子（京都大）、岩澤尚子（香川大）、大坂一代（京都大）、菊地新一（山形大）、小泉徹（立教大）、里見聰（龍谷大）、松澤志津代（茨城大）、武藤義人（文京女子大）

3．モニターからのご意見など

数多くのご意見などのうち一般的事柄についての回答は、センターニュース本号の NACSIS サービス Q & A に掲載します。その他については、今後の事業推進の参考とさせていただきます。
モニター各位には、貴重なご意見などをいただき厚くお礼申し上げます。

（データベース課）

平成5年度「学術情報データベース実態調査」概要と「データベース・ディレクトリ」の更新

学術情報センターでは、昭和61年度から学術研究のために研究者や大学・研究機関等が作成しているデータベースの調査を、昭和62年度からは自身のコンピュータを用いてデータベースの検索サービスを行っている大学・研究機関等の調査を行っています。

本年度の調査は平成5年8月5日～9月11日に実施しました。概要は次のとおりです。

なお、本調査の詳細な分析報告は、平成5年度「学術情報データベース実態調査報告書」として3月1日に刊行しました。

1．調査票対象および回収状況

区　　分	国立大学	公立大学	私立大学	大学共同利用機関	文部省文化庁施設機関等	短期大学高　専
対象数	99	46	390	16	14	554
調査票A	687	43	372	153	69	40
調査票B	106	8	93	12	5	18
調査票C	323	8	122	74	23	18

調査票A：研究者や大学・研究機関等で作成されているデータベースに関する調査
調査票B：データベースサービスを行っている大学・研究機関等に関する調査
調査票C：大学・研究機関等でサービスを行っているデータベースの個別調査
※放送大学は国立大学に含めた。

昨年度の調査に比べて、調査票Aが82件（6％）、調査票Bが50件（26％）、調査票Cが76件（15％）それぞれ増加しています。データベースサービス機関が大きく伸び、それに伴いサービスデータベース数も増加しています。

2．データベース作成状況（調査票Aに基づく）

(1) 分野の傾向（主なもの）

分　　野	文学	法学	経済	理学	工学	農学	医学	複合領域	広領域
件　　数	199	22	47	159	48	18	194	58	382
割合(%)	14.6	1.6	3.4	11.7	3.5	1.3	14.2	4.3	28.0

全体的な傾向としては昨年度と大差はありません。

(2) 作成データベースの公開／非公開

区　　分	公開可能	相談に応ずる	非　公　開	無　回　答
件　　数	552	366	440	6
割合(%)	40.5	26.8	32.3	0.4

公開可能なデータベースが昨年度に比べ35件増加してます。

3．データベースサービス状況（調査票Bおよび調査票Cに基づく）

(1) データベースサービスを行っている機関別に見たデータベース件数

区　　分	国立大学	公立大学	私立大学	大学共同利用機関	文部省文化庁施設機関等	短期大学高　専
件　　数	323	8	122	74	23	18
割合(%)	56.9	1.4	21.5	13.0	4.0	3.2

公立大学はすべて図書館所蔵目録で、昨年度までは0件でした。

(2) サービスされているデータベースの内訳

区　　分	自組織作成図書目録除く	図書館所蔵目録	自組織以外で作成（国内）	自組織以外で作成（国外）
件　　数	173	190	95	110
割合(%)	30.5	33.5	16.7	19.4

昨年に比べ、自組織以外で作成されたデータベースを導入してサービスしている組織の数が大きく増加（昨年48件）しています。

4．「データベース・ディレクトリ」の更新

今年度の学術情報データベース実態調査の内容に基づき、「データベース・ディレクトリ」を更新し、12月15日からサービスしています。

最後に、本調査については、関係の大学・研究機関等の方々からご多忙中にもかかわらず多大なご協力を賜りました。深く感謝申し上げるとともに、今後ともより一層のご協力をお願いいたします。

（データベース課）

「学術雑誌目次速報データベース（仮称）」の実施計画

本誌25号、26号で進捗状況について報告しました「学術雑誌目次速報データベース」の実施計画の構想、データの作成方式、運用計画についてお知らせします。

1．構　想

平成5年12月2日(木)に、全体計画を策定するための第2回学術雑誌目次速報データベース検討会議を、前回(平成5年10月5日開催)と同じメンバーにより開催しました。会議では、前回の議事要旨を確認した後、このデータベースの形成計画に関して意見交換を行いましたが、これを受けてセンターでは、以下の方針によりデータベース化を進めてゆくこととしました。

このデータベースは、学術雑誌に掲載された記事を収録する索引型のデータベースですが、最終的には、国内で刊行される全分野の学術雑誌（大学紀要類、学協会誌、商業誌などからなる）を網羅することを目指します。ただし、当初から、すべての学術雑誌を収録することは不可能ですので、刊行元である大学等の研究機関や学協会などの協力を得ながら、順次収録範囲を広げて行く計画です。記事の種類に関しては、原著論文のみならず、翻訳論文、研究報告、解説記事、資料、書評、紹介記事などをも採録することとし、雑誌の目次情報としても利用できるようにします。データ内容に関しては、標題、著者名、掲載雑誌名、巻号年月次、ページなどの項目を基本としますが、それ以外の項目追加にも対応できるようにしておきます。また、その一方で、作成方式と運用体制などを工夫することにより、可能な限り迅速にデータベースサービスによる公開ができるようにします。

2．データの作成方式

このデータベース作成システムの概略については、本誌前号で簡単に紹介しておりますので、今回は具体的な作成方法を説明します。

原データの作成には、パソコンやワークステーションのワープロやエディタを使う方法と「桐」や「DBASE 4」などの市販のデータベースソフトを使う方法とがあります。データベースソフトを使って入力を行う場合は、入力画面の設定などをあらかじめ行う必要があります。今回は、それよりも簡便な方式である、ワープロソフトを使用した方式について紹介します。

まず、各自のパソコンのワープロソフトなどで、次に例示するような一定のフォーマットにより文書を作成します。記事データの入った文書ができたら、インターネットや公衆回線を通じて学術情報センターのワークステーションに接続し、その文書ファイルを送付して下さい。データ内容にエラーがなければ、これで作業は終了です。

送っていただいたデータは、センター側で編集・加工を行い、数日中にはNACSIS－IRでサービスする「学術雑誌目次速報データベース」により検索することができるようになります。

検索画面表示例を次に示します。

```
@A1  論文の共同執筆についての一考察                    ・・・標題
@B1  ﾛﾝﾌﾞﾝ ﾉ ｷｮｳﾄﾞｳ ｼｯﾋﾟﾂ ﾆﾂｲﾃﾉ ｲﾁ ｺｳｻﾂ      ・・・標題（ヨミ）
@C1  Co-authoring of scholarly papers : A comparative study on Japanese and
     Western papers.                                   ・・・標題（欧）
@E1  根岸／正光                                        ・・・著者名
@F1  ﾈｷﾞｼ/ﾏｻﾐﾂ                                         ・・・著者名（ヨミ）
@G1  Negishi/Masamitsu                                 ・・・著者名（欧）
@J1  学術情報センター                                  ・・・著者所属
@E2  山田／尚勇
@F2  ﾔﾏﾀﾞ/ﾋｻｵ
@G2  Yamada/Hisao
@J2  学術情報センター
@P1  AN10015340                                        ・・・掲載雑誌の書誌ID
@Q1  5                                                 ・・・掲載雑誌の巻号
@R1  199212                                            ・・・年月次
@S1  27-39                                             ・・・ページ
@@@
```

ワープロで作成した文書例

```
(          1)
ACCN:940000001
TITL:論文の共同執筆についての一考察
TITE:Co-authoring of scholarly papers : A comparative study on Japanese and
     Western papers.
AUTH1:根岸 正光
AUTE1:Negishi Masamitsu
AFFN1:学術情報センター
AUTH2:山田 尚勇
AUTE2:Yamada Hisao
AFFN2:学術情報センター
CITN:学術情報センター紀要
CITE:Research bulletin of The National Center for Science Information
     Systems.
VOLN:5    PAGE:27-39    YEAR:199212
NCID:AN10015340    ISSN:09135022
INAF:学情セ
```

検 索 画 面 表 示 例

3．試験運用の実施

平成6年度からの正式運用に先立ち、数大学のご協力により試験運用を行います。テスト的にデータを作成していただいた上で、作成システム、入力データ項目、データ記述規則などに関するご意見を伺い、今後の運用やシステムの改善の参考にさせていただきます。試験運用の期間は、平成6年3月中旬から下旬までを予定しています。

4．正式運用の実施

平成6年度から正式運用を開始するために、年度当初にはデータ作成の実施依頼をいたします。当面、大学紀要類については各大学、短大、高専にデータ作成をお願いし、学協会誌、商業誌については刊行元の団体などと交渉を進めていく予定です。申し出のあった機関から、順次データ作成を始め、NACSIS－IR による公開の準備をいたします。正式運用やデータの作成方式に関しての詳細は、別途センターで作成する「マニュアル」などで説明いたします。また、平成6年度中頃には、このデータベースに関する説明会を全国各地で開催する計画です。

（データベース課）

NACSIS サービス Q & A

情報検索関係

以下の要望・質問は、平成5年度NACSIS－IRモニター制度において出されたものです。

要望1

・DISPLAY コマンドで、表示項目を利用者が自由に設定できるようにしてほしい。

現在、出力モードは各データベースの特徴に合わせて多様な表示が簡単に行えるように設定しています。表示項目を自由に設定できれば便利となる点も多々あると思いますが、一方、指定に関する操作が煩雑となることも考えられます。利用者の要望などを良く調べ、出力モードの統一と合わせて検討していきます。

要望2

・LOOK コマンドをもう少し使いやすくしてほしい。

総合マニュアルの記述などが若干分かりにくく、良く読まないと見逃してしまうような機能があります。このため、総合マニュアルなどの改訂時にはこれらのことを考慮して分かりやすくすると同時に、LOOK サブコマンドや表示メッセージなどを工夫するなど、今後使いやすくする方法を検討していきます。

要望3

・コマンドの書式について、メニュー形式のコマンドやヘルプ機能を用意するなど、使いやすくしてほしい。

特に初心者の方やたまに利用するユーザにとって、ヘルプ機能やメニュー形式で検索を進める方式などは今後実現しなければならない機能であると考えています。

ヘルプ機能については、現在、?INFO コマンドで項目一覧を表示する機能を全データベースで使用できます。その他、現在は一部のデータベースのみ使用可能な以下のコマンドについて、平成6年度の初めには全データベースで使用可能とする予定です。

また、メニュー形式のコマンドについては、今後実現方法を検討し、使いやすい形式のものを用意する予定です。

コマンド	機　　能
?CHARGE	検索時間、利用料金を表示します。
?COMMAND	全コマンドの一覧を表示します。
?コマンド名	そのコマンドの機能および入力書式を表示します。
?ERROR	エラー・メッセージの説明を表示します。
?HELP	ヘルプの一覧を表示します。
?ITEM	全項目の一覧を表示します。

コマンド	機　　能
?ITEM 項目記号	その項目の説明を表示します（コードの場合は内容の一覧を表示します)。
?SCRIPT	学術記号、特殊文字の検索・表示についての説明を表示します。

要望 4

・オンラインで、最新のデータベース一覧（呼び出しコマンド）を表示できる機能がほしい。

TSS モードからの MENU コマンド（仮称）を新設して、選択方式でデータベースを起動できるようにする予定です。

要望 5

・研究者ディレクトリについて（データの更新、項目の見直しなど)。

研究者ディレクトリについては､学術情報センターとしても力をいれて取り組んでおり、現在「平成 5 年度学術研究活動に関する調査」を実施中です。また、調査の実施に併せて、項目の見直しなどについて検討を進めております。

今後とも調査などにご協力をお願いいたします。

要望 6

・講習会をレベルに応じて（初級、中級、上級など）開催してほしい。
・分野別、データベース毎の講習会を開催してほしい。

現在実施中の講習会は、基礎 I （1 日コース)、基礎 II （2 日コース)、地域講習会（2 日コース）と分けて実施しています。

今後、受講者のレベルに応じた講習会やデータベース毎の個別コースの実現に向けて、講習会担当係と協力していきます。

質問 1

・ NACSIS－IR のデータベースは、レコードの表示順序がデータベースに収納された順（データの古い順）になっているようだが、最新のレコードから表示する機能はないか。

「SET DES」コマンドで変更できます。このコマンドは、DISPLAY コマンドの表示を、アクセション番号の大きい（新しい）方からの順に変更します。

通常は、アクセション番号の小さい（古い）方からの順になっていますが、表示順をアクセション番号の大きい方からに変更したい場合は、

TYPE IN COMMAND
1/ SET △ DES △ ON

と入力します（△は空白の意味です）。
逆に、表示順をアクセション番号の小さい方からに戻す場合は、

TYPE IN COMMAND
1/ SET △ DES △ OFF

と入力します。
なお、END コマンドでデータベースの検索を終了すると、表示順は通常のアクセション番号の小さい方からの順に戻ります。
本コマンドは LAW（現行法令データベース）を除く全データベースで使用できます。

質問 2
・LIMIT コマンドで範囲指定はできないか。

LIMIT コマンドは、既に作成された検索集合中のレコードを対象にして、原データ中に指定された文字列を含むものを検索するコマンドです。従って、LIMIT コマンドの文字列に「1990--1993」と指定すると、原データ中にそのまま「1990--1993」という文字列を含むものを探しにいきます。
何年から何年までといった範囲指定の検索は、SEARCH コマンドや PHRASE コマンドなどの索引語を検索する場合に限って可能です。

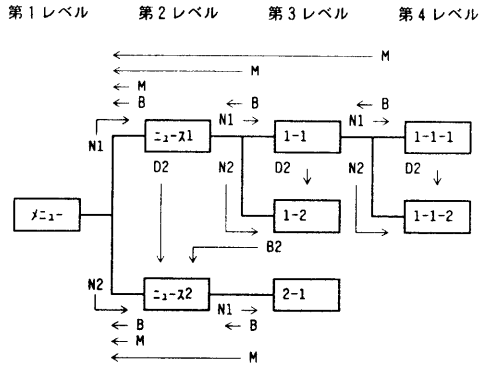
質問 3
・NACSIS－IR のコマンドで範囲指定の記号が、「-」を使う場合と「--」を使う場合があり、よく分からない。

SEARCH コマンドや PHRASE コマンドなどの検索のためのコマンドでは、範囲指定は「--」で指定します。これらのコマンドは通常、オペランドとして検索語を指定しますが、検索語中に「-」が付くもの（例：ISSN が 0386-2186）を指定する場合、「-」のあるなしで検索結果に違いが出ないように「-」を自動的に除いて検索しています。従って、この場合は例外的に「--」を指定するわけです。
その他、「--」を指定するコマンドは、FMLY，PARAGRAPH，PERIOD，SUBJECT といったコマンドです。
表示のためのコマンドや LOOK コマンドなどでは、範囲指定は全て「-」を使用します。

質問 4
・NEWS コマンドでオンラインニュースを表示する時に、コマンド「N 1」で 1 件目のニュースを見た後、2 件目のニュースを続けて表示するコマンドがよく分からない。結局、コマンド「M」でメニュー画面に戻ってから、再度「N 2」と指定しているのだが。

コマンド「D 2」で表示できます。また、メニュー画面からニュースを選択する時に、「N 1,2,7」というように一度に複数指定することができます。

なお、オンラインニュースの構造とコマンドの動きについては下図を参照して下さい。



質問 5

・更新日付から最新の更新レコードだけを検索の対象にするコマンドはないか。

NACSIS－IR の各データベースの最新更新日付は、データベース起動時に表示していますが、残念ながら更新日付を指定して検索する機能はありません。

その代わり、ある条件で検索した集合の中から更新レコード（前回の検索以降にデータベースに追加されたもの）だけを取り出すことができます。

この方法は、前回の検索結果集合を保存しておいて、それと更新後の同じ検索条件での集合との論理差をとるものです。

（前回の検索）

TYPE IN COMMAND

1/ S △ Y.1993 ←――――① 1993 年の文献の集合を作成。

＊ 58500 1/ Y.1993 ←――――② 該当するものが 58500 件あった。

TYPE IN COMMAND

2/ KEEP △ DATA 1 ←――――③ KEEP コマンドで、この集合をファイル名「DATA 1」として保存。

（今回の検索）

TYPE IN COMMAND

1/ S △ Y.1993 ←――――④ ①と同じく 1993 年の文献の集合を作成。
（注：次回のために③の方法でこの集合を保存）

＊ 62500 1/ Y.1993 ←――――⑤ 今度は該当するものが 62500 件あった。

TYPE IN COMMAND

2/ ENTER △ DATA 1 ←――――⑥ ENTER コマンドで、③で保存した「DATA 1」を呼び出す。

TYPE IN COMMAND

3/ DIF △ 1,2 ←――――⑦ ④で作成した集合（62500 件）から⑥で呼び出した集合（58500 件）と重なるものを除く。

＊ 4000　3/1 AND NOT 2 ←――⑧ 4000 件が 1993 年の文献で前回以降に更新されたレコード。

TYPE IN COMMAND

4/ SET △ UNIV △ ON ←――⑨ SET UNIV コマンドで、⑧で得られた集合に検索範囲を限定。

データベースによって更新頻度が異なりますので、総合マニュアルなどで検索するデータベースの更新頻度（週１回、月１回、年１回など）を調べてから行って下さい。

なお、上記例の①④の部分は、検索の条件が複雑な場合など QSAVE コマンドでコマンド式を保存しておいて、QUSE コマンドで実行させるという方法もあります。

質問 6

・アクセション番号を指定して直接レコードを表示するコマンドはないか。

DISPLAY コマンドで表示できます。「DISPLAY △ A.アクセション番号」と指定して下さい。

なお、この機能は、現行法令データベース、家政学文献索引データベース、木簡データベース、RAMBIOS、化学センサーデータベース、学術関係会議等開催情報、学協会集会スケジュールの７種類を除いた全データベースで使用可能です。

質問 7

・ NACSIS を経由して JOIS に接続した場合、文字化けが発生する。解決方法は？

利用者が使用する通信ソフトの漢字コードが新 JIS（JIS 83）になっていることにより文字化けが発生することがあります。

この場合、使用する漢字コードを変更する「$SET」コマンドが JOIS 側で用意されていますので、このコマンドで漢字コードを変更することにより正しく表示される場合があります。

【例】

¥JOIS △ E △ JOIS の利用者番号，サーチャー名

（「¥JOIS E」によりメッセージなどが英文になります。）

⋮

U : $SET △ TERM

1 : ASCII( )　2 : JIS 78(＊)　3 : JIS 83( )

S : SELECT NO.

U : 3

S : STORED

U : ¥END

（次回の接続から指定した漢字コード（この例では「JIS 83」）が有効になります。）

ASCII…アスキー（英数字のみ）
JIS 78…旧 JIS
JIS 83…新 JIS

この方法でも文字化けが解決しない場合、「$SET」コマンドにより「JIS 78」(JOIS の標準値) に戻しておいてください。

電子メール関係

質問 1

- RN コマンドを利用していて、次のようなことで困ったことがあります。どうすれば解決できますか。

(1) 未読メッセージが存在しないニュースグループに対してニュースをポスト (投稿) したい。

(2) ニュースをポストしたが、他のサイトに転送されていないことがある。

(1) RN コマンド利用時に、メッセージ管理ファイル (.newsrc) の内容をチェックし、未読メッセージが存在しない場合には、そのニュースグループを参照しない仕様になっているため、ポストしようとしても目的のニュースグループの指定ができません。

ただし、次の 2 つの方法により、目的のニュースグループにポストすることができます。

a：RN コマンド利用時に利用者管理ファイルを利用しないオプション(-i)を指定する。

【利用例】

SYSTEM ?RN △-i

この〔−i〕オプションを利用することにより、本センターのサイトに存在するすべてのニュースグループ名を未読、既読に関係なく指定して、ポストすることができます。また、ニュースを表示してもメッセージ管理ファイルには記録されませんので、既読状態にはなりません。

なお、このことについては、「電子メールシステム利用者マニュアル」第 4 版 (P. 135) の RN コマンドのオプションの記載内容に誤りがありましたので、この場を借りておわびさせていただきます。正誤内容の詳細については、電子掲示板「NACSIS」に掲載していますので、ご参照ください。

b：ポストコマンド (p) 入力後、エディタを利用してニュースグループ名の修正を行いポストする。

【利用例】

```
SYSTEM ?RN
        ∫  ニュースの表示
?p
subject : 主題
*#text
-l △ all
0010 Newsgroups : 旧ニュースグループ名
0020 Subject : 主題
0030
```

```
-s △/旧ニュースグループ名/新ニュースグループ名/
0010 Newsgroups : 新ニュースグループ名
1 TIMES CHANGE
-i △ 30
0031 (ここから本文を入力する)
        ↓
nnnn (改行)
-e
END OK ( Y / N ) ? y
POST OK (Yes or No) ? y
Posting...
```

(2) ニュースをポストしても学術情報センター以外のニュースサイトに掲載されない場合は、次のような場合が考えられます。

ニュースを中継するサイトにおいて、ある特定のニュースグループの運用状態が、休止状態に変更されていてニュースを転送できない場合があります。もし、このような場合であれば、ポストするメッセージのヘッダー情報に「Approved : △ xxxxxx」を追加することにより、そのニュースサイトから他のニュースサイトにも転送され、掲載されるようになります。

【利用例】

```
SYSTEM ?rn
        ↓  目的のニュースグループに移動する。
?p
subject : 主題
*# text
-l △ all
0010  Newsgroups : ニュースグループ名
0020  Subject : 主題
0030
-0025 Approved : △ xxxxxx
-i △ 30
0031 (ここから本文を入力する)
      ↓
nnnn (改行)
-e
END OK ( Y / N ) ? y
POST OK (Yes or No) ? y
Posting...
```

xxxxxx の所には投稿者のメールアドレス(例:a 00000@sinet.ad.jp)を設定してください。

NACSIS－IR データベース収納状況　（1／2）

平成 6 年 1 月 28 日現在

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
1	科学研究費補助金研究成果概要データベース	93,455	昭和 60 年度～
2	学位論文索引データベース	75,535	昭和 59 年度～
3	学会発表データベース	156,577	昭和 62 年 3 月～
4	学術論文データベース第一系（全文） （電子関連）　（抄録）	1,573 3,842	平成元年度～
5	学術論文データベース第二系 （化学関連）	11,401	昭和 58 年 1 月～
6	学術論文データベース第五系 （理学関連）	1,474	平成 4 年 1 月～
7	海外研究プロジェクトデータベース	80,972	平成 4 年 1 月末現在
8	民間助成研究成果概要データベース	1,095	昭和 46 年度～
9	経済学文献索引データベース	96,303	昭和 58 年 4 月～
10	学会予稿集電子ファイル	79,428	1965 年 7 月～
11	臨床症例データベース	2,003	1988 年 1 月～
12	雑誌記事索引データベース	1,020,533	1984 年 1 月～
13	現行法令データベース	3,698	平成 5 年 9 月末現在
14	維新史料綱要データベース	23,089	
15	木簡データベース	14,574	
16	研究者ディレクトリ	130,109	昭和 63 年 5 月現在
17	データベース・ディレクトリ	1,490	平成 5 年 8 月現在
18	家政学文献索引データベース	19,751	1979 年 4 月～
19	RAMBIOS	5,382	1983 年 4 月～
20	化学センサーデータベース	8,780	1975 年 1 月～
21	電気化学データベース	72,153	
22	Life Sciences Collection	1,249,400	1982 年 1 月～
23	MathSci	1,527,535	1940 年 1 月～
24	COMPENDEX PLUS	2,746,772	1976 年 1 月～
25	Harvard Business Review	2,682	1927 年 1 月～
26	ISTP & B	2,165,150	1982 年 1 月～
27	EMBASE	2,959,676	1984 年 4 月～
28	SciSearch	4,892,887	1987 年 4 月～
29	Social SciSearch	1,379,490	1983 年 4 月～
30	A & H Search	1,269,021	1983 年 4 月～
31	目録所在情報データベース （和図書）	832,289 7,585,013	

（2／2）

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
32	目録所在情報データベース （洋図書）	1,885,114 4,709,852	
33	目録所在情報データベース （和雑誌）	75,295 1,550,159	
34	目録所在情報データベース （洋雑誌）	121,833 1,098,553	
35	科学技術関係欧文会議録データベース	39,877	昭和60年4月～
36	アメリカン・センター図書館総合目録データベース	7,787	平成5年4月末現在
37	JPMARC	1,380,973	1956年1月～
38	LCMARC(Books)	3,568,188	1968年1月～
39	LCMARC (Serials)	604,326	1973年1月～
40	学術関係会議等開催情報 （日本学術会議編）	11,210	1991年4月～
41	学協会集会スケジュール （日本工学会編）	437	1991年4月～

（注）No.31～34のデータベースの上段は書誌件数、下段は所蔵件数。

（システム業務係）

接続ニュース

前号以降、新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は、以下のとおりです。

（平成6年2月1日現在）

No.	機関名	接続日	No.	機関名	接続日
281	東京経済大学	5.10.26	291	共立女子大学	5.12.13
282	跡見学園女子大学	5.10.27	292	鹿児島経済大学	5.12.14
283	千葉商科大学	5.11.05	293	大正大学	5.12.16
284	帝塚山学院大学	5.11.15	294	盛岡大学・盛岡短期大学部	6.01.06
285	東邦大学	5.11.16	295	農林水産省農業生物資源研究所	6.01.14
286	国立国語研究所	5.11.24	296	関西外国語大学	6.01.24
287	日本女子大学	5.12.01	297	流通科学大学	6.01.25
288	椙山女学園大学	5.12.03	298	高千穂商科大学	6.01.26
289	常葉学園短期大学	5.12.03	299	山形県立図書館	6.01.28
290	ノートルダム清心女子大学	5.12.07	300	三重県立図書館	6.02.01

この結果、参加機関数は、国立大学97、公立大学21、私立大学141、共同利用機関12、短期大学10、高等専門学校4、その他15、合計300となりました。

（共同利用第一係）

NACSIS—CAT データベース構築状況

平成6年1月28日現在

データベース名称			収納件数	備考（収録期間等）
総合目録データベース	和図書	書誌	832,964	
		所蔵	7,615,677	
	洋図書	書誌	1,162,652	
		書誌（遡及）	723,506	
		所蔵	4,713,450	
	和雑誌	書誌	75,639	
		所蔵	1,554,900	
	洋雑誌	書誌	122,392	
		所蔵	1,103,231	
	著者名典拠		691,335	
	統一書名典拠		4,154	
	和雑誌変遷マップ		8,815	
	洋雑誌変遷マップ		13,919	
参照ファイル	LC／MARC	洋図書書誌	4,302,416	1968年1月～1993年12月
		洋雑誌書誌	604,326	1973年1月～1993年8月
		非文字書誌	247,109	1973年1月～1993年7月
		洋書著者名典拠	2,611,613	1977年1月～1994年1月
		洋書統一書名典拠	143,072	1977年1月～1994年1月
	JP／MARC	和図書書誌	1,500,722	1948年1月～1994年1月
		和雑誌書誌	89,686	1968年8月～1993年1月
		和書著者名典拠	327,561	
	UK／MARC	洋図書書誌	1,371,120	1950年1月～1994年1月
	TRC／MARC	和図書書誌	344,762	1985年4月～1994年1月
	GPO／MARC	洋図書書誌	342,672	1976年1月～1993年12月

（システム業務係）

平成５年度　教育研修事業報告

平成５年度の教育・研修事業は、以下のとおり実施しました。

○研修事業

区　分	会　場	回次	開催期間	受講者数
総合目録データベース実務研修会	学術情報センター	①	5. 9.27(月)～10.22(金)	12名
		②	5.11. 8(月)～12. 3(金)	12名
	小計			24名
目録システム講習会	学術情報センター	①	5. 5.24(月)～ 5.28(金)	28名
		②	5. 6.21(月)～ 6.25(金)	28名
		③	5. 7.19(月)～ 7.23(金)	28名
		④	5. 8.23(月)～ 8.27(金)	28名
		⑤	5.10.18(月)～10.22(金)	28名
		⑥	5.11.29(月)～12. 3(金)	28名
		⑦	6. 1.24(月)～ 1.28(金)	28名
	小計			196名
目録システム講習会（地域講習会）	筑波大学		5. 5.24(月)～ 5.28(金)	6名
	熊本大学		5. 5.31(月)～ 6. 4(金)	10名
	九州大学	① ②	5. 6.14(月)～ 6.18(金) 5. 6.14(月), 6.21(月)～ 6.25(金)	8名 8名
	金沢大学		5. 6.28(月)～ 7. 2(金)	10名
	横浜国立大学	① ②	5. 6.28(月)～ 7. 2(金) 5. 6.28(月), 7. 6(月)～ 7. 9(金)	5名 4名
	東北大学		5. 7. 5(月)～ 7. 9(金)	11名
	富山大学 富山医科薬科大学		5. 7.12(月)～ 7.16(金)	4名
	名古屋大学		5. 7.19(月)～ 7.23(金)	20名
	徳島大学	① ②	5. 7.26(月)～ 7.30(金) 5. 7.26(月), 8. 3(月)～ 8. 6(金)	5名 5名
	愛媛大学		5. 8. 2(月)～ 8. 6(金)	7名
	岡山大学		5. 8. 2(月)～ 8. 6(金)	10名
	一橋大学		5. 8.16(月)～ 8.20(金)	10名
	大阪大学		5. 8.16(月)～ 8.20(金)	8名
	北海道大学		5. 9. 6(月)～ 9.10(金)	12名
	東京大学	① ②	5. 9.27(月)～10. 1(金) 5. 9.27(月), 10. 5(月)～10. 8(金)	10名 10名
	広島大学		5. 9.27(月)～10. 1(金)	20名
	京都大学		5.10. 4(月)～10. 8(金)	10名
	神戸大学	① ②	5.10. 4(月)～10. 8(金) 5.10. 4(月), 10.12(月)～12.15(金)	12名 12名
	鹿児島大学		5.11.15(月)～11.19(金)	16名
	小計			233名
ILLシステム講習会	学術情報センター	①	5. 6. 1(火)～ 6. 2(水)	27名
		②	5. 7. 8(木)～ 7. 9(金)	28名
		③	5. 9.20(月)～ 9.21(火)	27名
		④	5.10.26(火)～10.27(水)	28名
		⑤	5.12. 7(火)～12. 8(水)	28名
	小計			138名

区　分	会　場	回次	開　催　期　間	受講者数
NACSIS－IR講習会（基礎コースⅠ）	学術情報センター	①	5．6.15(火)	28名
		②	5．6.16(水)	28名
		③	5.11．1(月)	28名
		④	5.11．2(火)	28名
		⑤	5.12.14(火)	27名
	小　計			139名
NACSIS－IR講習会（基礎コースII）	学術情報センター	①	5．9．2(木)～ 9．3(金)	28名
		②	6．1.12(水)～ 1.13(木)	28名
	小　計			56名
NACSIS－IR講習会（地域講習会）	筑波大学		5．7．1(木)～ 7．2(金)	12名
	北海道大学		5．7．7(水)～ 7．8(木)	22名
	徳島大学		5．7.21(水)～ 7.22(木)	23名
	東北大学		5．7.27(火)～ 7.28(水)	16名
	立命館大学		5．8．3(火)～ 8．4(水)	18名
	名古屋大学		5．8．5(木)～ 8．6(金)	25名
	信州大学		5．8.24(火)～ 8.25(水)	21名
	京都大学		5．9．7(火)～ 9．8(水)	10名
	東京学芸大学		5．9.28(火)～ 9.29(水)	14名
	大阪大学		5.10．7(木)～10．8(金)	19名
	金沢大学		5.10.19(火)～10.20(水)	16名
	東京大学		6．3．8(火)～ 3．9(水)	20名
	小　計			216名
電子メールシステム講習会	学術情報センター	①	5．6.10(木)～ 6.11(金)	18名
		②	5．8．2(月)～ 8．3(火)	27名
	小　計			45名
情報ネットワーク担当職員研修（文部省共催）	学術情報センター他	①	5．7.12(月)～ 7.15(木)	36名
		②	5．9．7(火)～ 9.10(金)	36名
	小　計			72名
合　計				1119名

○学術情報センターシンポジウム

テ　ー　マ	期　日	会　場		参加者数
学術情報センター創成期から躍動期へ	5.11.18(木)	神戸会場	神戸国際会議場	245名
	5.11.24(水)	東京会場	日本大学会館講堂	323名

○大学等主催講習会への支援

区　分	会　場	期　間	受講者数
NACSIS－IR講習会	東京学芸大学	5．6.30(水)	40名
	国立教育研究所	5．7.12(月)～ 7.23(金)	20名
	信州大学	5.12．9(木)～12.10(金)	80名
	福島大学	5.12.15(水)	20名
	筑波大学大学院	6．1.14(金)	35名
合　計			195名

上記の講習会・研修会の実施には、関係各位のご協力を頂きました。ここに厚くお礼申し上げます。

（研修係）

平成６年度　教育研修事業計画

平成６年度の教育研修事業を次のとおり計画します。

研修会等の種類	目　　的	受講対象者	実施回数
情報ネットワーク担当職員研修（ネットワーク入門） （文部省共催）	大学等において情報ネットワークの運用管理に携わる職員に対し、情報ネットワークに関する最新かつ高度の知識および専門的技術を修得させることにより、職員の資質の向上を図るとともに、教育・研究の進展に資することを目的とする。	各大学等の大型計算機センター、総合情報処理センター、情報処理センター等において、情報ネットワークの運用管理に携わっている者または携わる予定の者。	２　回
情報ネットワーク担当職員研修（ネットワーク管理） （文部省共催）		各大学等の大型計算機センター、総合情報処理センター、情報処理センター等において、情報ネットワークの運用管理に携わっている者で、UNIX について十分な知識を有している者。	２回
総合目録データベース実務研修会	目録所在情報サービスを利用している図書館において、目録担当者の指導、講習会の講師などを行う高度な知識と技術を有する指導者の養成を目的とする。	目録所在情報サービスを利用している図書館等職員のうち目録システム講習会を修了し、かつ目録業務について十分な知識と経験を有する者。	２回
目録システム講習会	目録システム業務担当職員に対し、システムの運用に関する知識・技術を習得させることを目的とする。	目録システムに接続している機関で、現在目録業務を担当している職員。	７回
目録システム地域講習会 （各大学共催）	目録システム講習会の受講機会の拡大を図るため、学術情報センターで実施しているものと同等の講習会を各図書館等と共催で開催し、目録業務担当職員にシステムの運用に関する知識・技術を習得させることを目的とする。	目録システムに接続している機関で、現在目録業務を担当している職員。	16大学 19回
ＩＬＬシステム講習会	ILL 業務担当職員に対し、システムの運用方法および端末操作などに関する知識・技術を習得させることを目的とする。	ILL システムによる業務実施館および学術雑誌総合目録協力館の ILL 業務を担当している職員。	５回
ILLシステム地域講習会 （各大学共催）	ILL システム講習会の受講機会の拡大を図るため、学術情報センターで実施しているものと同等の講習会を各図書館等と共催で開催し、ILL 業務担当職員にシステムの運用に関する知識・技術を習得させることを目的とする。	ILL システムによる業務実施機関および学術雑誌総合目録協力機関の ILL 業務を担当している職員。	５大学 ５回
NACSIS － IR 講習会 （基礎コースⅠ）	学術情報センター情報検索サービス(NACSIS—IR)に関する知識・技術を習得させることを目的とする。	図書館等において代行検索業務に携わっている者および情報検索サービス利用者で、情報検索について初心者もしくは利用歴が１年未満の者。	６回
NACSIS － IR 講習会 （基礎コースⅡ）		図書館等において代行検索業務に携わっている者および情報検索サービス利用者で、基礎コースⅠの修了者または同等の情報検索サービス利用歴が１年以上３年未満の者。	２回
NACSIS－IR地域講習会 （各大学共催）	NACSIS—IR 講習会の受講機会の拡大を図るため、学術情報センターで実施しているものと同等の講習会を各図書館・情報処理センター等と共催で開催し、代行検索担当者および情報検索サービス利用者に情報検索に関する知識・技術を習得させることを目的とする。	図書館等において代行検索業務に携わっている者および情報検索サービス利用者で、情報検索について初心者もしくは利用歴が１年未満の者。	11大学 11回
電子メールシステム講習会 （基礎コース）	NACSIS メールサービスに関する知識・技術を習得させることを目的とする。	NACSIS—MAIL システムを初めて利用しようとする者。	３回
電子メールシステム講習会 （応用コース）		NACSIS—MAIL およびその他のメールシステムの基本的な利用ができる者。	１回

○「平成6年度　研修事業要綱」

平成6年度の教育研修事業の期日、受講申込方法などの詳細については、「平成6年度研修事業要綱」をご覧ください。「研修事業要綱」は、大学・学会等の団体宛に、平成6年4月にお送りします。

○学術情報センター・シンポジウム

学術情報センターの事業や研究活動に関連するテーマについて発表などを行う集会で、東京地区と関西地区で開催を予定します。開催日時・会場・テーマなどの詳細は、本センターニュースでお知らせします。

○大学・学会等の団体が主催する講習会への支援

地域講習会以外に、大学・学会等の団体が、学術情報センターの各種サービスを利用するために講習会を企画実施する際には、資料提供・講習会用利用者番号の貸与・講師派遣などの支援・協力を行います。実施計画中の団体の担当者は、お問い合わせください。

（研修係）

平成5年度目録所在情報サービス利用説明会報告

平成5年度に大学、短期大学、高等専門学校などの未接続図書館に目録所在情報サービスの概要を理解していただくための説明会を6回開催し、77機関、117人の参加がありました。なお、その他の9機関内で平成5年8月の利用規則の改正により新たに利用者となった県立図書館、国公立試験研究機関、学会から6機関の参加がありました。

平成5年度目録所在情報サービス利用説明会参加機関および利用人数

参加機関数および参加人数		合　計	開催日別内訳					
			第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
			5/14	6/17	7/30	9/14	10/8	11/19
参加機関数		77	13	16	15	10	7	16
内訳	大　学	50	9	12	10	7	4	8
	短　大	14	2	4	3	2	1	2
	高　専	4	1	0	1	1	0	1
	その他	9	1	0	1	0	2	5
参加人数		117	24	22	20	20	11	20

（共同利用第一係）

平成6年度目録所在情報サービス利用説明会の開催

目録所在情報サービスの概要や接続方法を理解していただくため、私立大学、短期大学、高等専門学校、文部省および文化庁の施設機関等、国公立試験研究機関、学術研究法人、学会、都道府県・政令指定都市立等の未接続図書館（図書室等）を対象とした標記説明会を開催しますのでご案内いたします。

(1)　おもな内容

①学術情報センターの概要、②目録所在情報サービスの概要と利用方法、
③学術情報センターとの接続方法、④利用申請方法、⑤研修の申込方法、
⑥質疑応答、個別相談

(2)　開催日時および申込締切

開　催　日　時			募集開始	申込締切
第1回	5月13日(金)	13：30～16：30	4月1日(金)	4月28日(木)
第2回	6月17日(金)	13：30～16：30	〃	6月3日(金)
第3回	7月15日(金)	13：30～16：30	〃	7月1日(金)
第4回	9月9日(金)	13：30～16：30	8月1日(月)	8月26日(金)
第5回	10月7日(金)	13：30～16：30	〃	9月22日(木)
第6回	11月11日(金)	13：30～16：30	〃	10月28日(金)
第7回	1月20日(金)	13：30～16：30	12月1日(木)	1月6日(金)
第8回	2月10日(金)	13：30～16：30	〃	1月20日(金)

なお、各回先着12機関とさせていただきますので、希望日を共同利用第一係まで電話(03-3942-6933)で予約(確認)のうえ、「目録所在情報サービス利用説明会参加」と明記し、①機関名、②機関の郵便番号および住所、③参加者の職名および氏名(3名以内)、④連絡先の電話番号、⑤接続予定の電算機(メーカー名、機種名、規模など)、⑥参加日(第○回○月○日)を記入して共同利用第一係までFAX(03-3942-6797)でお申し込みください。

(共同利用第一係)

平成6年度　情報検索・電子メール利用説明会の開催

平成5年8月の利用資格の拡大により、新たに情報検索サービスおよび電子メールシステムの利用者となった国立試験研究機関や学会等を対象とした標記説明会を開催しますのでご案内いたします。

この説明会は本サービスの利用の普及や本センターと連絡調整などをしていただく各機関の電子計算機担当者および図書館職員、学会の事務局職員等を対象に募集いたします。

(1)　おもな内容

①学術情報センターの概要、②情報検索サービスの概要および利用方法、
③電子メールシステムの概要および利用方法、④申請方法、⑤接続方法、
⑥研修の申込方法

(2)　開催日時および申込締切

開　催　日　時			募集開始	申込締切
第1回	7月29日(金)	14：00～16：30	4月1日(金)	7月15日(金)
第2回	10月28日(金)	14：00～16：30	〃	10月14日(金)

なお、各回先着14機関とさせていただきますので、希望日を共同利用第一係まで電話(03-3942-6933)で予約(確認)のうえ、「情報検索・電子メール利用説明会参加」と明記し、①機関名、②機関の郵便番号および住所、③参加者の職名および氏名(2名以内)、④連絡先の電話番号、⑤参加日(第○回○月○日)を記入して共同利用第一係までFAX(03-3942-6797)でお申し込みください。

(共同利用第一係)

ワークショップ「米国における日本研究のための情報資源」開催

学術情報センターは、文部省科学研究費補助金（国際共同研究）によるプログラムとして、平成4年度開催したシンポジウム「学術情報と標準化」（会議録は米国から刊行予定）に引き続き、去る平成5年12月7日から10日まで、日米双方からそれぞれ6名の発表者を招いて、「米国における日本研究のための情報資源－社会科学と地域研究におけるアクセシビリティ問題－」に関するワークショップ（WIREJAS = Workshop on Information REsources for JApanese Studies）を開催した。全体を6つのテーマに分け、それぞれについて日米双方から一人ずつ発表し、討論を行った。テーマと発表者は次のとおりである。

計量書誌学的接近ではDr. Henry SMALL（Director of Corporate Research, ISI）と根岸正光教授（学術情報センター）、書誌コントロールではDr. Frank Joseph SHULMAN（Bibliographer, Editor and Consultant for Reference Publications in Asian Studies）と松本脩作氏（アジア経済研究所図書資料部参事）、地域センターではMs Kuniko Yamada McVEY（Director, Documentation Center on Contemporary Japan, Reischauer Institute for Japanese Studies, Harvard University）と園田英弘助教授（国際日本文化研究センター）、調査報告ではMs Gretchen SHINODA（Manager, Gateway Japan）と井上如教授（学術情報センター）、フィールド経験ではDr. Ken'ichi IMAI（Director of Research, Stanford Japan Center）ならびにDr. Terry Edward McDOUGALL（Director of Education, Stanford Japan Center）とD. Stephen J. ANDERSON（Dept. of Government and Foreign Affairs, University of Verginia）、そしてナショナル・プランと協力プログラムではDr. Amy Vladeck HEINRICH（Director, C.V. Starr East Asian Library, Columbia University）と松田芳郎教授（一橋大学経済研究所日本統計センター）の12人である。この会議録は学術情報センターの刊行物として現在準備中である。

平成5年度後期会議などの報告

運営協議員会

平成5年度後期の学術情報センター第21回運営協議員会は次のような審議・報告を行った。

1．第21回（平成6年2月14日）於：学術情報センター分室会議室

議　事

1．前回会議議事要録の確認について
2．教官の人事について
3．平成5年度事業状況報告について
4．平成5年度第2次補正予算等について
5．その他

評　議　員　会

平成5年度後期の学術情報センター第17回評議員会は次のような議事について審議を行った。

1．第17回（平成6年3月9日）於：学術情報センター分室会議室

議　事

1．前回会議議事要録の確認について
2．教官の人事について
3．平成5年度事業状況報告について
4．平成6年度学術情報センター予算内示額の概要及び平成5年度補正予算について
5．その他

紀要編集委員会

平成5年度第1回紀要編集委員会が、平成6年1月27日(木)に開催され、次のような審議を行った。

審議事項　1．学術情報センター紀要第6号発行までのスケジュールについて
　　2．査読の分担について

課金委員会

平成5年度第1回課金委員会が、平成6年2月16日(水)に開催され、次のような報告・審議を行った。

報告事項　1．学術情報センター事業の概況について
　　2．平成5年度中にサービスを開始したデータベースの概要について
　　3．情報検索サービス等の大学以外の研究者等への公開について
　　4．学術情報センターと日本科学技術情報センターのデータベースのオンラインによる相互利用の開始について

審議事項　1．新規サービス予定データベースの利用料金について

データベース委員会

平成5年度データベース委員会が、平成6年3月3日(木)に開催され、次のような報告・審議を行った。

報告事項
1. 情報検索サービスの運用について
2. 情報検索サービスの拡充及びデータベースの作成について
3. 研究者等提供データベースの受入状況について
4. NACSIS－IR講習会実施について
5. NACSIS－IRモニター制度の実施について
6. 平成5年度学術研究活動に関する調査の実施について
7. 学術雑誌目次速報データベース（仮称）について
8. 経済統計データベースについて
9. 利用者資格の拡大について
10. 日本科学技術情報センターとのゲートウエイによるデータベースの相互利用について

審議事項
1. 今後のデータベース作成計画について
2. 平成6年度情報検索サービス計画について
3. 平成6年度NACSIS－IR講習会実施計画について
4. 学術雑誌目次速報データベース（仮称）の今後の展開について
5. NACSIS—IRのインターネット対応について

海外渡航一覧

11. 9～11.12　淺野教授（中国）
11. 9～11.15　小野教授（タイ）
12. 9～12.11　淺野教授、相澤助手、趙　助手（台湾）
1.31～ 2. 4　藤代助手（ロシア）
2. 2～ 2.13　淺野教授（米国）
2. 3～ 2.12　山田研究開発部長（シンガポール、タイ、ベトナム）
2.15～ 2.23　根岸教授、佐藤助手（英国）
2.15～ 2.24　宮澤教授、甲斐専門・電子情報係長、早野国際事業係長（英国）
2.22～12.20　孫　助手（米国、カナダ、英国、仏国）
2.27～ 3. 5　宮澤教授（ベトナム）
3.17～ 3.27　井上研究主幹（米国）
3.20～ 3.27　金　助手、上田事業部長、石橋共同利用課長（米国）

学術情報センター日誌

11.11　第35回全国共同利用大型計算機センター長会議懇談会（東京ガーデンパレス）
11.18　学術情報センターシンポジウム（神戸国際会議場）
11.19　韓国学術振興財団（KRF）　金相球理事長他1名来訪
11.24　学術情報センターシンポジウム（日本大学会館）
11.25　文部省所轄研究所等所長会議（東京ガーデンパレス）
11.29　第6回目録システム講習会　～12.3
12．6　タイ国 Khon Kaen University, Ms Sirichote 氏他1名来訪
12．6　米国 Rutgers University, Dr.Susan Hockey 氏他1名来訪
12．7　第5回 ILL システム講習会　～8
12．7　WIREJAS（ワークショップ米国における日本研究のための情報資源）　～10
（国立国会図書館、東大、学術情報センター）
12．8　衆議院文教委員会視察（別館会議室、講習会室）
12．9　米国 University of Hawaii, Dr. Hisami Konishi Springer 氏来訪
12.14　NACSIS－IR 講習会基礎コースI　～3
12.14　韓国産業技術情報院（KINITI）権寧五氏他2名来訪
1.10　韓国ソウル国立大学図書館（SNU）朴孝根館長他1名来訪
1.12　NACSIS－IR 講習会基礎コースII　～13
1.18　韓国淑明女子大学校文献情報学科　計13名来訪
1.24　第7回目録システム講習会　～28
1.26　国際交流基金日本語研修センター「海外司書日本語研修」研修生計13名来訪
1.27　紀要編集委員会
2．8　国際協力事業団（JICA）集団研修「行政情報システム」コース研修員計12名来訪
2.14　運営協議員会（分室会議室）
2.14　国際交流基金沖縄国際センター研修生　計16名来訪
2.16　課金委員会
2.24　公開講演会（和漢韓医籍国際総合目録の実行可能調査）（別館会議室）
3．2　会計検査院実地検査　～3
3．3　データベース委員会

学術情報センターニュース（第27号）　1994年3月18日発行
発行人　猪瀬　博
発　行　学術情報センター　東京都文京区大塚3丁目29番地1号（〒112）
電　話　(03)3942-6937（直通）情報・資料係